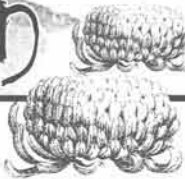




アイの四季だより



アイセレモニー株式会社

相談室 三水村普光寺969-1(高野農機様となり)
営業本部 ☎026-253-1377 FAX253-1378
飯網ホール 牟礼村黒川2415 ☎253-1377
五岳ホール 信濃町古間93 ☎251-7155

フリーダイヤル ☎0120-796-311

牟礼村 三水村 信濃町 豊野町 長野市——皆さまのお手もとへお届けいたします——



明るく、しょう酒なオフィス。コーヒー、ジュースのメニューカードでお好みチョイス。BGMは、ジャズから演(能)歌まで。つついその気に。でも、ここはオフィスです。念のため、いろいろな相談に来られる方が増えています。気軽に応じてくださいますので、皆さん頼りにされます。牟礼駅前 牟礼村牟礼509-1 TEL253-8800 FAX253-8801 (有)斑尾土地 ラートコンサルティング株式会社 代表取締役 小林直樹

「今、不況じゃない 普況だよ」

頼りになる ひとこしこ
村の不動産屋 斑尾土地 小林直樹さん

「スバリ!」不況ではなく「普況」と明言する斑尾土地の小林さん。つまり、不況といっているのは、自分の責任免れる。確かに昏迷はしているが、いつの時代もこんなもんだよ。これが普通だよ、不を普に置きかえればいい、と。

さらに、この昏迷、受けて立とうじやないか。チャンスへの方向転換が、こんな時こそ可能であるという常識、非常識をくつがえす勇気を

常識の定義ほどあいまいなものはない、自己中心でモノごとを考え、自分の都合よいくことが正義で、他は邪悪とする。自分は常識ある人、あの人は非常識な人。
「近ごろのチャパツの若けえもん

は、ことば使いもなつとらん。男だから女だかもわからん。非常識にもほどがある」と、あの「人」立腹。その反対の面に眼を向ける、着目する。すると新たな常識が発見できる。と小林さんは特に非常識に着目せよ!と強調されます。

卒業、新たな旅立ち。私ものお葬式業務は、兎角暗く悲しく、長い間の慣習で身に付いてちやつてるんですが……

「卒業されて、新たな旅立ちを祝う。未知の世界だから不安もあるが、未来永劫(えいごう)だから、大きな希望を託せる」なるほど、発想の転換ですね。卒業して社会に出る、就職する。送り出すために万全

の体制を考える。小林さんのお話は、すべて前向きで建設的です。毎年、ヨーロッパへ一人旅

なぜ、不動産屋か?「大学で法律を専攻。その知識を生かせる職業として」真面目なんです。多くのお客様と接することができるとも、選択のひとつにあげられています。

二十五年前から毎年一人でヨーロッパへ出かけ、訪れるたびに多くの人たちと出会い、いろいろな考え方を学ぶことができたといいます。小林さんの「おほか」な考え方、行動力は、この辺にヒミツが隠されているようです。

村の不動産屋さん 元気が出ます。小林さんとは不動産業ですが、「村」が付いているところがミソです。親しめますよね。コンサルティンクもやってまして、不動産管理、資産運用活用、経営戦略の相談、提案に、セミナー、講演会と、時代のニーズに合わせて幅広く活躍されています。「私を信用してくださる方々がいると思うと、とても元気が出ます」



当社のホームページで頑張ってます 戸谷朱美

葬儀担当者の体験談

映画のシーンが身近に起きた

Y・T

一人暮らしのおばあさんが亡くなりまして、御遺体の引き取りに警察へ行きました。

親族に連絡しても誰も面倒見してくれる人がいなく、私は仕方なくひとりでおばあさんの家へ連れて帰りまして。お部屋の片付けが結構大変でした。汗だくで、やっと片付けすんで、安置して。区長さんとか近所の方と話して、市役所の福祉課で何とかしてもらおうと言うことで、その日は帰ったのです。

翌日行ってみると、喪主を引き受けると言う人が五人も六人も、いや七人もいるんです。何でだろう……なんと、家の中から二千万円以上の預金通帳と二千五百万円位の有価証券が出てきたというんです。

それを聞いた親族がそこから中から夜通し車ぶつとばして集まってきた、そりやもう大騒ぎ。そのうちに大喧嘩始まっちゃいました。ああいう、僕はお葬式の段取りしたいんですが……

私は国語が苦手、始めて弔電を見た時、「なんじゃこの漢字?」と今まで見たことのない漢字の嵐で目が点になってしまいました。そして、数年前から始めたナレーションでは、自分で文章を考えなくてはならなくなり、頭が爆裂しそう

上品そうな顔した女性も、仕舞にや「アンタ一人でうまい事やろうたって、そんな事絶対させないよ」この時、鬼の様な顔でした。結局三日程かかりまして、すったもんだで葬儀終らせて。財産は弁護士立てて、一応のおさまりを見ましたが、ドラマの中にいるような、こんな体験も葬儀やさんを長いことやってると……

カースーパー牟礼店 大駐車場前
アイセレモニー
相談室
葬儀に係わる費用についても、事前に知っておきたい。法事についても、相談に応じておられます。お気軽に、いつでもどうぞ。
三水村普光寺 ☎253-1377

でした。また、宗派の話となると一種の社会科学系です。実は、社会の歴史も苦手で、得意な教科はないんですけど……ホント社会人になってから苦手な教科を基本?!とする職業についてしまわなくて、自分の安易さが悔やまれてなりません。でも、辛いことも多々ありましたけど、喜んで下さるお客様がいらっしゃるの、今の私が居ます。まだまだ未熟な私ですが、これからも自分なりに一生懸命頑張りますので、宜しくお願いします。

シリーズ名刺をたずねて

三足のわらじを履き続けて

曹洞宗 日方山 良松寺

牟礼村黒川



この白みがけ石柱寺標の文字は、山岡鉄舟先生直筆の本堂にある「寺標」のものです。◀門標

住職倉島孝善(こうぜん)さんは、すでに十才の時から経をよんでいたといわれます。一休さんを彷彿させます。駒沢大学出の正当派で、長沼の妙笑寺で修業。昭和二十二年十二月一日、本寺妙笑寺より若僧、二十一才で良松寺に着任。地域信仰の拠点、良松寺に赴く。戦後間もなく、この年は古橋自由形競泳世界新記録で日本中が沸き、美空ひばりデビュー。戦後復興の明るい兆しが見え始めたころですが、まだまだ食糧難の時代。寺には田圃(たんぼ)があるから、米のメシ鯉腹食べるヨに誘われて。つまり懇請されて着任は表向きで、エサにつれてられて真相のようです。「ワカゾーガンバレ」の期待を背負って。きつい三足のわらじで



▲寺宝 れん(柱聯) 左:「諸悪莫作衆善奉行」右:「自淨吾意是諸仏教」つまり、悪いことはするな、善いことをせよと、お釈迦さまの教えです。山岡鉄舟先生直筆。山岡鉄舟:書の達人で剣道家、政治家。明治天皇の侍従で有名。(1836~1888)

職。三足のわらじで日々フル稼働。これは大変なことでした。昭和二十九年、周囲に慫慂して自動車通勤。この時代、教員兼任職は珍らしくありませんでしたが、自動車で吉田高校へは、今流でいえば「飛んでル〜お坊さん」のイメージです。「免許証ではなく許可証の時代でしたヨ。急病がでると、キミ病院へ行ってくれ、教室はいいから」と、学校行っても、教壇へ立つよりも、車で走り回るほうが多かったと、でも、人助

けも、お坊さんのお勤めのうちですものね。教師から講師へとつづく。教員生活四十年。平成五年に退職。これで百姓兼任職、二足のわらじでいけますか?「いやいや、講演で各地飛び回ってるヨ、年に百回位かな。宗教家の勤めだ」老人会、老人ホーム、老人大学などから請われて。教え子や同窓会仲間の、亡くなった方のご供養にも。結局、百姓と講演と住職で現在もお三足のわらじを履き続けて、相変わらず多忙な様子。教育一家三代で寺を守る。ご子息さまは早稲田英文科卒の国際派。住職の道と同じく歩んで教員勤め副住職。そのうえ高校生のお孫さんも資格を取られてお坊さんの修業に精進しています。由緒ある良松寺の伝統を三代で継

深夜の霊安室

葬儀担当者のひとり

それは、八月のある日の深夜のことです。ヒリヒリ、と転送の携帯が鳴りました。身内が亡くなったので病院まで迎えの車を回してくれ、と言う依頼で出かけて行きました。その病院は霊安室が地下にあるので、車を回して待ちました。しば

らくするとまた電話が鳴って、少し時間がかかるので霊安室で待つてくれと言われて、そうする事にしました。台車付のタンクを押し霊安室に入ったら、なんと遺体があるではないですか。しかも誰も居ない。まあ、私は慣れてますので。別段何とも思わず、遺体と二人きりで待つてました……

冬のある日、五岳ホールで作業。時間が経って外に出てみると、私の車が白い雪にすっぽりとまっけてました。私の頭の中はすっかり真っ白け。つひのすみかか雪五尺(ここは一茶のふる里、信濃町、なるほど。またある日のこと。営業に回ってフラフラとして五岳ホールに帰ってきたら、私の車が駐車しておいたはずのところから消えてました。こんどは、私の魂がすうと消えて行くようでした。「ええ?冗談でしょう」みたいな。大勢のおまわりさんに囲まれて、事情聴取に振り回されて。そんなこんなアイセレモニー新人生活が始まりました。



長野ゆかり

新人社員のびたば日記

ひとくちMEMO



合掌は手を合わせることで、手を合わせると生物電気の回路ができて、生命光線の放射が促進されます。すると血液の循環が順調になり健康的なからだをつくる。この時、合掌の手の位置がポイントです。肘(ひじ)を血液循環の調整器官である「心臓」より高く上げ、顔面の高さに保つのはコツです。

と清浄な血液の流れがよくなり、合掌の知覚神経が鋭敏になります。心身一如。中であり無であり、空であるという境地が自らつくられます。また、背柱を軸とした人体左右対称の均衡状態を強制することにもなり、自然と姿勢も正しくなって、健康に良いわけです。毎食事前に一分十五秒合掌を励行すれば、誠心を神仏に通じさせることと同時に健康にもなるという一石二鳥、これを見逃す手はありません。

自宅葬 一用命は

アイセレモニーへ 格安にてご奉仕いたしております。地元での専門店です。地域実績No.1

★訂正とお詫び 本紙七月六日発行(第38号)で明専寺様記事で、「一茶の「菩提寺」のところ校正ミスにて誤っております。謹んでお詫び申し上げます。

編集 後記



弊社は他と違い、葬儀専門店です。から、葬儀に精通した社員が一丸となって、サービスに動いております。いつ、どのような時にご依頼があっても素早く対応できますようにと、受話器片手に風呂は七分。(高橋)地域の皆さまのお役に立つことがなにより励みに、日夜頑張っております。